

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	10	大学等名	横浜国立大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、Phase 1「授業設計方法と成績評価の改善」、Phase 2 & 3「YNU 学士力と就業力の可視化」そして Phase 4「YNU 学生ポートフォリオ」まで、改革プロセスをシステムティックに構成し、さらに大学の入口（入学）から出口（卒業）までの質保証を伴った大学教育を実現するための総合的な取組が高い水準で行われている。とりわけ、それを稼働させるために、平成 28 年度には「高大接続・全学教育推進センター」の設置により高大接続を、平成 30 年度には「大学院教育強化推進センター」の設置により、学士課程の大学院との接続強化を図っていることは高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、事業開始年度に極めて綿密な事業計画が立てられており、それに従って順次事業を進められ、着実な進展が見られる。また、テーマ別評価の観点から、成績評価の平準化と厳格化、学修成果の把握、教育課程の体系化、成果を踏まえた取組の改善、学生の授業外学修時間に関する取組が着実に進捗していることは、十分評価できる。目標の達成状況に関して、一部目標値未達の指標があるものの、それらの実績値については向上傾向にあるため、今後の事業継続の中で改善されていくものと期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、全学を横断する「YNU 教学マネジメントチーム（AP 会議）」の設置等、学長を中心とした全学的体制が整備されていることに加え、教職協働での FD・SD の実施体制も整備されていることは評価できる。また、大学改革や教学 IR 等の有識者で構成される「外部評価委員会」も設置していることから、自己評価による取組改善実質化のための外部評価体制も整備されているとともに、外部評価委員からの指摘に対しては適切な対応もなされている。さらに、「YNU 学生ポートフォリオ」などを基に、客観的なエビデンスに基づいた PDCA サイクルを機能させており、補助期間終了後の発展的な事業実施のため、教育戦略方針に責任を持つ「教育連携推進機構」（仮称）を令和 3 年度に新設することを目指していることから、補助期間終了後も継続的に事業が実施されることが十分に見込まれる。

事業成果の普及については、文部科学省教学マネジメント特別委員会（第 5 回 令和元年 5 月 30 日）において、授業設計方法と成績評価の改善に関する発表を行ったことは、当該大学の取組が全国的に注目されていることの表れであると言える。また、全国規模の講演会、学協会出版物、論文発表、個別の大学からの依頼等において、本事業における取組とその成果の周知・報告に努めていることは評価できる。